

駐大連北九州市経済事務所

◆所長 田代 昇三 ◆副所長 古賀 直樹

◆副所長 呂 俐 ◆主任 劉 振傑

田代 e-mail : yumeiyasu4411@yahoo.co.jp

大連の自動車市場は韓流が急伸

最近、自動車産業の韓流はますます激しさを増している。特にファミリーカーの割合が最も高い中型車市場で、K3とソレントが相次いで発売され、韓国自動車メーカーへの関心度はますます高まっている。現代自動車とKIAの自動車は外観のセンスが良く、価格面でも競争力のある商品を発売しており、韓国車の春が到来するだろうという人もいる。

(2012/10/31 半島朝刊より抜粋)

ここ大連では、毎日500台前後の新車が購入されているため、交通渋滞は日常茶飯事ですし、駐車スペースの確保が問題となっているといったことにも頷けます。大連で生活していると、我々日本人でも羨望の的となる様な、メルセデスベンツ、ジャガー、ポルシェといった高級車が多く街を走り回っています。しかし、我々同様、庶民にはなかなか手が出ないのも事実。日本と同じく一番多く目にするのはファミリーカー・SUVです。日本と一つ違う点を挙げるとするならば、日系メーカー一色ではなく、韓国車も多く目にする点です。

そんな実感を裏付けるかの様に、今年10月の乗用車販売シェアで韓国系メーカーが日系メーカー全体を超えたとの報道がありました。日本の自動車メーカーが領土問題に端を発する反日デモや世界的な景気低迷といった逆境に苦しむ中、韓国自動車メーカーが優れたデザインと価格を武器にシェアを拡大しているといったものでした。

中国汽車工業協会が発表したところによると、今年1月から10月のメーカー別乗用車販売台数は、北京現代が676,700台と、日系自動車メーカーの東風日産の663,600台を抜いて、5位にランクインしたとのこと。以前の韓国車の「値段の割には見栄えも性能も良い車」と言ったイメージから脱却し、流体彫刻と呼ばれる独自のデザイン哲学を構築し、ひと目見れば、現代自動車の車だと分かる、統一されたデザインにすることでブランドイメージを高めることに成功しているとの評価でした。

やはり、日本人の私からすれば、日本の自動車メーカーが逆境に負けず、日本車の売り上げを伸ばしていくことを期待します。現下の日中関係で、日本車を購入する事をリスクと考える一般消費者を取り込むことが、必要となると考えられますので、今後の日中関係の良化を期待して止みません。

ここ大連においては、東風日産が2014年の竣工を目指し、新工場の建設を進めています。日産自動車のプレスリリースでも、「中国が同社にとって最大の市場である」旨のコメントもあることから、今後の展開を期待せずにはられません。

「中国式家庭教育」 三つの問題が焦点に

重慶市教育科学研究所の小中学生の家庭教育環境に関するレポートで、1.体罰による教育が支持されていること、2.家庭内のコミュニケーション不足、3.教育にかかる費用としてEQよりIQを重んじる傾向にある。という3つの問題が話題になっている。

(2012/10/31 大連日報より抜粋)

日本と同じ様に、中国でも教育に関する数多くの報道がなされています。その中でも多いと感じるのが、子供の躾に関する報道です。中国は1979年に開始した一人っ子政策を採っています。「中国の一人っ子は両親と祖父母の愛情を一身に受けて、甘やかされて育つため、ストレス耐性が弱く、自分の身の回りの家事等の基本的な生活能力に劣る子供もいる」と言われています。

そういった背景から、以前の「飴教育」から体罰を是認する「鞭教育」が台頭してきているらしいのです。重慶市教育科学研究院家庭教育研究センターの、体罰に関する保護者の意識調査によると、体罰を是としない保護者は僅か36.2%に過ぎなかったとのこと。

また、同様に問題となったのが、「親子間のコミュニケーション不足」という問題と、「IQ 偏重の教育方針」です。

中国の伝統的な考え方に「子供より、親の方が偉大であるから、子に対し命令するのは当たり前だ」というものがあり、そう考える保護者も少なくありません。そのため、保護者は子に命令することに慣れてしています。しかし、現代の子供たちは上記の一人っ子政策の影響からか、個人意識が強く、一方的に命令されるだけでは、コミュニケーションを遮断してしまい、親子間のコミュニケーション不足を招いてしまうことが多いのだそうです。

「IQ 偏重の教育方針」については、一人っ子政策によって親が子にかかる教育費が多く確保できることと、親からの期待を一身に背負っているため、教育熱は非常に高いものがあります。また、より良い大学に進学すれば、就職に有利になるとの発想から勉学にかかる費用は教育費の多くを占めるのです。その結果、その他の道徳、美意識、体育等の教育が疎かになり、社会に出てから社交性が低く、チームワークを苦手とするIQが高くて、EQが低い人々が問題となっているとのことでした。

中国と日本、国や文化は違えど、子供の教育という普遍的な問題は根本的には同じなのだと考えさせられました。

しかし、日本人の私には、「重たい荷物を持つと姿勢が悪くなる」という理由から、祖父母が荷物を持ち登校する姿や、下校時刻間際になると、送り迎えの祖父母で溢れかえる学校周辺の景色を見ると、やはり違う国、文化なのだと実感させられます。



子供の荷物を背負い登校する祖父と孫の様子

大連市では早くも積雪となりました。

12月3日大連では早朝から雪が降り始め午前9時頃には辺り一面雪景色となりました。前日から気温が下がり始め、当日の気温はマイナス11℃まで下がり今年初めての大雪となりました。

通常私たちが出勤する午前8時。その日は気温も低く、みぞれ交じりの雨が降っていたので、「通勤が億劫だなあ」と思いながらも通常通り家を出ました。すると、家を出て5分もしないうちに雨が次第に雪に変わり、職場に着いた時には完全に雪となり、強風と相まって吹雪の様な状態で、1時間後には辺り一面真っ白な雪景色となりました。私は九州の人間ですので、マイナス11℃という気温を経験したこともなければ、朝から降り始めた雪が1時間でここまで積もるといふ経験も初めてでした。今年の大連は降雪の時期が早く、また降雪となる頻度も高いとのことで、現地の方々は寒さの厳しい冬になると言っています。大連の風景画像は、インターネットでも見ることが出来ますが、雪景色の大連はなかなか見られないと思いますのでご紹介いたします。



積雪のあった大連の市街地の様子



わずか1時間程で辺り一面が雪景色に

